

1面：「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育」の設置にあたって...
2面：「附属健康・医療センター」の設置にあたって...
3面：「体内環境モダリティ」研究センターの開設にあたって...
4面：山形大学医学部精神医学講座の教授職に就任した二教授...
5面：山形大学医学部第100回記念大会学術部学生優秀発表賞を受賞...
6面：SD章授与式...
7面：SD章授与式...
8面：SD章授与式...
9面：SD章授与式...
10面：SD章授与式...
11面：SD章授与式...
12面：SD章授与式...
13面：SD章授与式...
14面：SD章授与式...

題字 元弘前大学長 遠藤正彦氏筆



Table with symposium details including dates, times, and speakers. Title: 「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育」事業シンポジウム



「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育」事業シンポジウム
地域基盤型医療人材育成センター 副センター長 鬼島宏
(医学教育学講座 教授)

本年度四月から総合診療医学講座と救急・災害医学講座が統合して、救急災害・総合診療医学講座となりました。...

「救急災害・総合診療医学講座」の設置にあたって
救急災害・総合診療医学講座 教授 花田裕之
本年四月から総合診療医学講座と救急・災害医学講座が統合して、救急災害・総合診療医学講座となりました。...

三月二十九日にアトホテル弘前にてシンポジウムが開催されました。
「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育」事業シンポジウム
鬼島宏 教授

(前ページより)
官学民の共創の下で、健康者の分子生物学的データ・生理・生化学的データ・個人生活活動データ・社会環境的データを取得し、解析を行い、特に酸化ストレス、糖化、炎症と腸内細菌叢に着目した生活習慣病やQOLとの関連性を明らかにします。

本研究を通じて得られた知見から、健康寿命の延伸に資するターゲットを設定し、新たな食を通じた価値

創造(健康状態の見える化、ソリユーション研究)を実現します。

以上述べてきた熱い思いは江崎悦朗社長の思いそのものであり、社長自らが提案した本講座名「体内環境モデリング研究講座」に集約されています。

岩木健康増進プロジェクトを中心とした青森県で繰り広げられている健康づくり・社会活動は、本講座の目的を達成させるために十分なフィールドを有してお

ります。岩木健康増進プロジェクトのビッグデータによる解析や、QOL健診を中心とした社会実装活動における検証研究などです。このように研究における親和性の高い江崎グリコ株式会社と弘前大学とが、これから力強い一歩を踏み出すこととなります。

講座の運営に関しましては、多くの皆様のご支援をいただくことになると思いますが、なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

共同研究講座

「ミルク栄養学研究講座(雪印メグミルク株式会社)」の設置にあたって

ミルク栄養学研究講座 教授 伊東 健
(分子生体防御学講座 教授)

令和五年四月一日に雪印メグミルク株式会社との共同研究講座「ミルク栄養学研究講座」を設置し、開設式が令和五年四月十二日に東京四谷にある雪印メグミ

ルク本社にて執り行われました。開所式に引き続き、共同研究講座開設を記念してのシンポジウムが行われました。開所式には、雪印メグミルクから、佐藤雅俊代表取締役社長、川崎功博常務執行役員、森隆志常務執行役員、小林敏也執行役員をはじめとする雪印メグミルクの皆様が、弘前大学からは福田眞作学長、廣田和美医学研究科長、中路重之学長特別補佐、村下公一学長特別補佐、COINEXI機構長と私



が参加しました。引き続きシンポジウムでは、中路先生が「ビッグデータを起点とした健康づくりに向けた社会イノベーション創出・雪印メグミルク株式会社との連携」と題して記念講演を行い、続いて小林執

行役員/ミルクサイエンス研究所長から「雪印メグミルクの栄養機能研究について」ということでご講演をいただきました。パネルディスカッションでは、川崎常務執行役員がモデレーターを務められ、中路先生、整形外科学講座の藤田有紀先生、雪印メグミルクからは、小林研究所長、雪印メグミルクスキー部アドバイザーの原田雅彦氏、マーケティング部からは春田裕子氏が参加されました。藤田先生からは、「名城大アスリートの研究」、原田監督からは「アスリートの栄養管理について」、春田さんからは「地域の健康増進と乳製品の普及」についての紹介がありました。中路先生からは、COIが始まる前から現常務執行役員である森常務が大学院生として弘前に三年間学

近うが経ち、ようやく共同

座では、骨や乳酸菌など雪

長稿 寄稿 医学研究科 医学部 医学

COVID-19禍の三年間を振り返って

医学研究科長 廣田 和美



二〇二〇年から猛威を振るった新型コロナウイルス感染症も、ようやく今年五

研究講座が開設されたことが感無量であるとお話がありました。小林所長からも自分の母方の故郷である弘前で研究ができることが感慨深いとお言葉がありました。

ミルク栄養学研究講座には、玉田嘉紀教授、三上達也教授、中路特任教授、多田羅洋太助教と私が参加し、雪印メグミルクからはミルクサイエンス研究所から小林所長、中埜拓副所長、今井宏主幹、上野宏主査、河田大輔研究員、中野礼彪研究員、研究開発部から塩田誠副部長が参加しました。当講座では乳製品摂取と健康状態の関係を明らかにすることを目的に、日本人の特性を考慮した研究を行うことを検討しております。具体的には、岩木プロジェクトの栄養管理について、ジェクト健診のビッグデータを解析し、乳製品摂取をはじめとする食事パターンと腸内菌叢の関連において、集団および個人の健康状態への影響の研究を行うことを考えております。以上の取り組みにより、本講座では、骨や乳酸菌など雪

翌日の二〇二〇年四月二日に、海外渡航をしていた当医学部卒業生がCOVID-19に感染していたことが判明し、その対応に追われ、学務担当と共に怒涛のような一ヶ月を過ごしたことを思い出します。当時は海外渡航に制限はなく、渡航自体に問題はなかったのですが、世間はそうは判断せず、大学として記者会見を開かざるを得ませんでした。しかし、謝罪会見ではなく、大学として彼らを守ることを前提とした会見が出来たことは、大変良かったと思われました。そのため、激しいバッシングをマスコミからは受けずに済みました。福田学長並びに当時の渡邊事務局長の迅速かつ的確な判断によるところが大きかったです。

さて、医学科学生は、COVID-19禍の影響に伴い、大学生活が一変しまし

た。附属病院における感染防止の観点から、アルコールを提供するアルバイトの禁止、国内特定地域への移動時は許可制とするなど、他学部学生よりさらに厳しい制限を求めなければなりませんでした。そのため、他学部の学生以上に経済的に困窮する学生が増えまし

た。そこで、医学科学生を支援するための「弘前大学医学部支援金」設立を医学部同窓会「鵬桜会」に相談し、御賛同頂きました。そのお陰で、鵬桜会会員の皆様を中心に、医学研究科教職員、地域の皆様方に、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

最近では、鵬桜会への入会を、会費の支払いや個人情報

の提供を理由として敬遠する傾向にあり、卒業生の新規入会者が激減しています。しかし、これまでも医学科学生、医学研究科が困った時に助けてくれたのは、医学科OBの方々、つまり鵬桜会の皆さんでした。鵬桜会が継続発展することが、今後の医学科学生並びに医学研究科教職員の安定した活動の支えとなります。医学部ウォーカーご購読の皆様、是非とも医学科同窓会組織である「鵬桜会」を大事にしてください。もし、まだ鵬桜会に入会されていない方は、是非とも入会を宜しくお願ひ申し上げます。

病院長就任の「挨拶」

附属病院長 袴田 健一



二〇二三年四月一日付けで附属病院長を拝命した袴田健一です。私は一九八五

年に本学を卒業後、一九八八年に旧第二外科に入局。消化器・一般外科全般、特に肝胆膵・移植外科を手掛け、卒後三十八年間の多くを本院で外科医として過ごしてまいりました。二〇〇八年に消化器外科学講座の教授に就任、二〇一〇年から小児外科学講座教授を併任しております。この

間、技術研究開発では生体肝移植の臨床応用や膵臓に対するロボット手術の導入と保険収載、最近では産学官連携による遠隔手術プロジェクトを主導し、学会活動では外科ならびに消化器外科専門医制度の構築、社会活動では中医協保険材料専門組織あるいは厚労省オ

(次ページへ続く)

(前ページより)
ンライン診療検討委員会の構成員などを務めてまいりました。学内では専ら学務と国際交流関係の仕事が主体でしたが、福田病院長時代に手術部長、大山病院長の下では副病院長(医療安全管理者)を拝命し、病院運営にも関与してまいりました。この度、病院長に任命されることとなり、育てていただいた本学、本院への恩返しのため、専心専任に励んでまいりたいと考えております。

さて、新型コロナウイルス感染症対応に明け暮れた三年間で

したが、五類感染症への変更に伴い、社会がCOVID-19に向けて動き始めました。今後は、コロナが巷にありふれる状態を受け入れながら、病院機能の維持を図る必要があります。大きな犠牲と苦勞の末に蓄積した智慧を、コロナ禍の出口戦略や次の新興感染症や大規模災害への対応に活かすため、新たに危機管理・BCP担当副病院長職を設け、花田裕之教授にご就任いただきました。アドホックのコロナ会議から、機動力と実効性を兼ね備えた常設の危機管理組織へ移行

し、危機・災害に強い病院づくりを目指したいと思っております。さらに、喫緊の課題である働き方改革担当ならびに総務担当副病院長には横山良仁教授、病院経営の根幹である医療安全・経営担当副病院長には石橋恭之教授にご就任いただきました。今後十年、二十年先を見据えて経営基盤を強化したいと思っております。また、病院長補佐は、附属病院を発展させるために整備すべき課題別に、病院における教育・研修担当に櫻庭裕丈教授、地域医療・遠隔医療推進担当に掛田伸吾教授、接

遇・ハラスメント・臨床倫理担当に田坂定智教授、国際化担当に齊藤敦志教授、勤務環境改善・男女共同参画担当に玉井佳子教授、業務改善・DX担当に佐々木

賀広教授、特定臨床研究推進を含む研究担当に新岡丈典教授、看護担当に井瀧千恵子看護部長にそれぞれご就任いただきました。総勢十二名の執行部体制で病院

運営に臨みたいと思っております。教職員の皆様におかれましては、病院運営へのご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

もあり、放射線診断学講座の掛田教授をはじめとする先生方にご指導、ご助言、御協力頂き、論文をAcceptさせることができました。この研究に携わってくださった全ての方々に、厚く御礼申し上げます。今回は、厚く御礼申し上げます。今回は、厚く御礼申し上げます。今回は、厚く御礼申し上げます。

動に精進して参りたいと思っております。今回の研究では画像解析ソフトを使用し、多数の被験者の画像解析を行います。

山形大学医学部精神医学講座の教授就任にあたっての挨拶

山形大学大学院医学系研究科精神医学講座 教授 鈴木 木昭仁



令和五年一月一日付で山形大学医学部精神医学講座の教授に就任いたしました。これもひとえに弘前大学医学部の先生方をはじめとする皆様のご厚情の賜物と、この場をお借りして感謝申し上げます。

私は平成元年に弘前大学医学部に入学しました。勉学はそこそこの程度でしたが、医学部卓球部に所属し、練習やその後の飲み会、遠征や合宿など楽しく過ごしました。同級生にも恵まれ勉強会や実習後の打ち上げなど充実した日々を

過ごしました。弘前大学医学部の先輩方や後輩達、同級生との交流を通して、人生で大切なことを学ばせていただいたと思っております。平成七年に大学を卒業し、弘前大学医学部神経精神医学講座に入局しました。当時の医局には、兼子直先生を教授として大谷浩一先生(山形大学前教授)、矢部博典先生(福島県立医科大学前教授)、近藤毅先生(琉球大学教授)、岡田元宏先生(三重大学教授)、古郡規雄先生(独協医科大学教授)ら錚々たる方々が

おられ、先生方のご指導の下で、精神医学の基礎から臨床、研究に至るまで幅広く深く勉強させて頂きました。臨床精神薬理学分野で学位を取得し、平成十三年から一年間英国のキングスカレッジロンドン精神医学

研究所に留学させていただきました。精神遺伝学について勉強しました。弘前大学病院のみならず弘前愛成会病院、三楽病院、西北中央病院におきましても医師としての修業をさせていただきました。心からお礼申し上げます。

平成十五年に山形大学医学部精神医学講座に赴任し、以来この地で働かせていただいております。今年では十九年となります。山形大学医学部は、多くの人材が育成され、医学研究や地域医療に多大な貢献をされている大学であり、私自身も本学で様々な経験を積み重ねていただきました。研究面におきましては、人格の形成に関与する要因の検討をメインテーマとして検討して参りました。私自身、まだまだ未熟であります。

脳には予備能という概念があり、脳容積が少ない人は認知症発症の閾値が低いことが知られています。糖尿病は様々な機序で中枢神経への障害・脳容積の減少をきたし、認知症発症のリスク因子であると言われています。その前駆段階である前糖尿病状態(六十歳以上の半数以上がこの状態との報告もある)は軽度認知障害や認知症発症のリスク因子であることが知られていました。その脳容積の減少について証明した大規模研究はありませんでした。その解明を目的とし、対象はいきいき健診に参加された二千四百四十四名の参加者とし、Voxel based Morphometryという画像解析手法を活用して自動で脳容積を算出し、全参加者の全脳容積や灰白質、白質、海馬などの構造の容積を算出し、それぞれと耐糖能異常との関連性について解析を行いました。結果は、前糖尿病状態の患者では灰白質容積が健常群と比較して有意に減少しているという結果で、前糖尿病状態でも脳容積が有意に減少していることを示した初の報告となりました。

この度、二〇二三年三月十四日から十六日に京都府京都市で行われました日本生理学会第百回記念大会において、学部生ポスター発表優秀賞を受賞しましたのでご報告申し上げます。

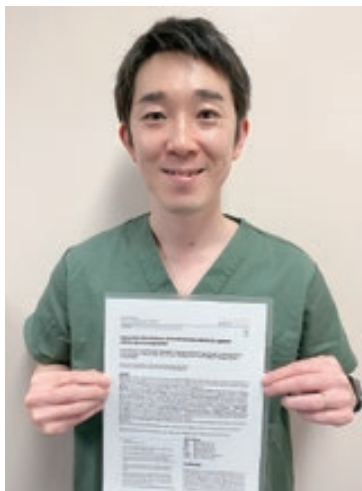
私の演題名は「β3サブユニットのリン酸化がGABA受容体の機能および輸送へ及ぼす影響」でした。この研究は、麻酔薬効果表優秀賞を受賞しましたのでご報告申し上げます。

リン酸化によるGABA応答調節機構の解明を目指したものです。吸入麻酔薬や静脈麻酔薬において全身麻酔効果発現にGABA応答の増強作用が指標となっており、麻酔作用発現のメカニズムが明らかとなる一方で、生体側の麻酔薬の感受性を規定するメカニズムはいまだその詳細は分かっていません。そこで本研究では、リン酸化部位に変異導入した安定発現株を確立し、電気生理学的手法および免疫組織化学的手法を用いてGABA応答変化及び麻酔効果の変容を解析することで、GABA応答制御(次ページへ続く)

論文が European Radiology 誌に

アクセプトされました

放射線診断科 助教 辰尾 宗一郎



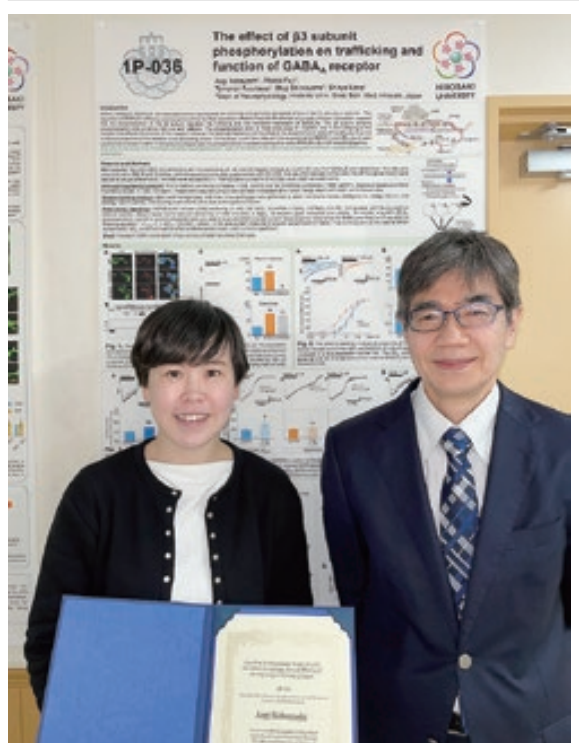
卒後八年目で放射線診断科に所属している辰尾宗一郎と申します。この度、European Radiology 誌に「Association of prediabetes with reduced brain volume in a general elderly Japanese population」の題で論文がAcceptされましたので、御報告申し上げます。

脳には予備能という概念があり、脳容積が少ない人は認知症発症の閾値が低いことが知られています。糖尿病は様々な機序で中枢神経への障害・脳容積の減少をきたし、認知症発症のリスク因子であると言われています。その前駆段階である前糖尿病状態(六十歳以上の半数以上がこの状態との報告もある)は軽度認知障害や認知症発症のリスク因子であることが知られていました。その脳容積の減少について証明した大規模研究はありませんでした。その解明を目的とし、対象はいきいき健診に参加された二千四百四十四名の参加者とし、Voxel based Morphometryという画像解析手法を活用して自動で脳容積を算出し、全参加者の全脳容積や灰白質、白質、海馬などの構造の容積を算出し、それぞれと耐糖能異常との関連性について解析を行いました。結果は、前糖尿病状態の患者では灰白質容積が健常群と比較して有意に減少しているという結果で、前糖尿病状態でも脳容積が有意に減少していることを示した初の報告となりました。

今後は画像データと岩木プロジェクトの豊富な臨床データを利用して、様々な分野で研究を続けていきたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

学部学生優秀ポスター発表賞を受賞

医学科二年生 小林 仰



この度、二〇二三年三月十四日から十六日に京都府京都市で行われました日本生理学会第百回記念大会において、学部生ポスター発表優秀賞を受賞しましたのでご報告申し上げます。

私の演題名は「β3サブユニットのリン酸化がGABA受容体の機能および輸送へ及ぼす影響」でした。この研究は、麻酔薬効果表優秀賞を受賞しましたのでご報告申し上げます。

リン酸化によるGABA応答調節機構の解明を目指したものです。吸入麻酔薬や静脈麻酔薬において全身麻酔効果発現にGABA応答の増強作用が指標となっており、麻酔作用発現のメカニズムが明らかとなる一方で、生体側の麻酔薬の感受性を規定するメカニズムはいまだその詳細は分かっていません。そこで本研究では、リン酸化部位に変異導入した安定発現株を確立し、電気生理学的手法および免疫組織化学的手法を用いてGABA応答変化及び麻酔効果の変容を解析することで、GABA応答制御(次ページへ続く)

(前ページより)
御に関わるトライフイッキン
グ機構を探索しました。結
果としては、Profolinとい
う麻酔薬ではβ3サブユ
ニットのリン酸化部位が非
リン酸化状態であるときに
麻酔薬効果が減弱すること
が示唆されました。今後は
リン酸化状態関連タンパク
を特定し麻酔薬との関連を
調べていきたいと思いま
す。

最後になりましたが、ご指
導賜りました脳神経生理学
講座の上野伸哉教授、古川
智範先生、下山修司先生を
はじめとする先生方に心よ
り感謝申し上げます。私は
コロナ禍で入学し、学内ア
ルバイト事業の一環として
一年次のころからこの研究
に携わらせていただきました
。当初は、研究に関する
知識も経験も乏しかった私
でしたが、先生方や先輩方

が常に丁寧な指導をしてく
ださったおかげで今回この
ような賞をいただくことが
できました。医学科のカリ
キュラムでは実験時間を確
保することが難しいのです
が、長期休暇を利用して研
究を継続したいと思いま
す。先生方に置かれまして
は今後ともご指導ご鞭撻の
ほど何卒よろしく願いま
します。

など、臨床面でも様々な分
野で尽力されていることが
示された講義でした。この
三年間は附属病院長として
も手腕を振るわれ、弘前大
学に貢献されました。

れました。
先生方は、齢六十五歳を
迎えられたとは思えないほ
ど、若々しく、バイタリ
ティーに溢れており(失敬
な表現をお許しくださ
い)、定年退任の言葉は、
全く以って相応しくない迫
力ある講義でした。
弘前大学医学研究科の発
展に長きにわたり尽力され
てきた大門先生、澤村先
生、大山先生に感謝を申し
上げますとともに、今後と
も医学研究科にお力添えを
いただきますよう、お願い
を申し上げます。

令和四年度 最終講義

大門 眞 教授
(内分泌代謝内科学講座)

澤村 大輔 教授
(皮膚科学講座)

大山 力 教授
(泌尿器科学講座)

学務委員長 鬼島 宏 教授
(医学教育学講座)

令和四年度の最終講義
が、令和五年三月二十二日
に医学部講義棟にて行われ
ました。今年度退任される
三名の教授、大門眞教授(内
分泌代謝内科学講座)、澤
村大輔教授(皮膚科学講
座)、大山力教授(泌尿器
科学講座)が最終講義を担
当されました。

後には若木健康増進プロジェ
クトにおいてビッグデータ
解析による研究へと発展さ
れたそうです。一貫して糖
尿病研究に従事され、その
間に多くの人との出会いで
一つ一つの研究が進出し、
多因子疾患である糖尿病の
疾患機序が明らかになって
きたことを示されながら、
Physician Scientistの大切
さを示された講義でした。

大山力教授による
「泌尿器科学と糖鎖生
物学のハーモニー」…
泌尿器科の診療と並行
して行っていた研究
が、米留学で大きく
発展していた経緯を詳
しく紹介していただき
ました。糖鎖生物学の
基礎研究成果と、泌尿
器科癌の解析とを組み
合わせることで、癌の
特性のみならず診断・
治療にまで応用できる
ことが示されました。

大門眞教授による「研究
の勧め―縁を大切に―」…
山形大学から継続されてき
た第一線での糖尿病の診
療・研究が紹介されまし
た。山形県形町における
糖尿病の大規模臨床試験
(舟形スタディ)では、耐
糖能異常が心血管疾患リス
ク因子になるなどを明らか
にされ、弘前に異動された

澤村大輔教授による「弘
前大学とともに」…学生時
代、さらには卒業後に皮膚
科医として歩まれてきた足
跡が紹介されました。多
様な皮膚疾患の診療に従
事する傍ら、皮膚免疫学領
域の研究を推進されてきた
。一時期在籍された

「泌尿器科学と糖鎖生
物学のハーモニー」…
泌尿器科の診療と並行
して行っていた研究
が、米留学で大きく
発展していた経緯を詳
しく紹介していただき
ました。糖鎖生物学の
基礎研究成果と、泌尿
器科癌の解析とを組み
合わせることで、癌の
特性のみならず診断・
治療にまで応用できる
ことが示されました。



【表】 令和4年度弘前大学学生表彰 医学部医学科関連のもの

● 社会活動で顕著な功績があった学生団体

団体名 one step to OBGY プロジェクト
メンバー 九鬼朝美、久下早紀、宮澤千裕、高橋亜実、川口瑞生 (人文社会科学部)、佐々木友喜 (人文社会科学部)

推薦者 横山良仁教授
活動内容 「産婦人科への一歩」という産婦人科受診のためのピグナズブック2022年版を作製した。この冊子では、大学生活において大切な「性」について男女を問わず疑問点をわかりやすく解説した。2022年度入学式を機会に弘前大学の全学生に配布した。冊子内容は多数のメディア(新聞、テレビ)で取り上げられた。2022年10月の日本産科婦人科学会の常務理事会でもこの冊子の内容が高く評価され、学生教育に貢献するとして日本産科婦人科学会のホームページに、本冊子にアクセスするURLが掲載された。

● 課外活動で顕著な成果を挙げた学生

学生氏名 藤本智朗
推薦者 高橋俊哉准教授(教育学部)
活動内容 2022年度東北学生柔道体重別選手権大会男子90kg級優勝

● その他の活動で顕著な成果を挙げた学生

学生氏名 佐藤宗二郎
推薦者 廣田和美教授
活動内容 令和4年8月4日から8月26日に、アメリカ合衆国で開催された第74回日米学生会議に参加し、「社会正義と文化多様性～現代社会における平和構築～」の分科会で日米の参加者と議論を重ね、国境を越えた相互理解の実践を行った。日米学生会議は、1934年に創設された歴史ある国際的學生交流プログラムで、日米両国から學生が夏の1ヵ月間の共同生活を通して、日米に関することだけでなく様々な世界的問題に関する議論を行うものである。(医学部ウォーカー第104号参照)

令和4年度
弘前大学学生表彰
教育委員会委員 今泉忠淳
(脳血管病態学講座) 教授



令和4年度 弘前大学学生表彰 表彰式

弘前大学では、毎年、研
究活動、社会活動、課外活
動やサークル活動で顕著な
成果・功績を挙げた学生を
表彰しています。令和三年
十一月から令和四年十月ま
での活動を対象に選ばれ
た、令和四年度の学生表彰
のうち、医学部医学科関
連のものを報告します
【表】。令和五年度も、学生
諸君が、学業はもちろんの
こと、その他の活動でも大
いに活躍して下さいことを
期待しています。

令和5年度 S D章授与式

学務委員長 鬼島 宏
(医学教育学講座 教授)

令和5年度S D (Student Doctor) 章授与式が、令和五年二月二十八日に基礎大講堂にて挙行されました。授与式では新五年次学生百三十名が、医の倫理に従って行動することを誓うこと



で、診療参加型臨床実習 (Clinical Clerkship) を開始するとういう大きな意義があります。臨床実習では、医療現場で患者さんの前に立たせていただくことの責任の重さと、診療行為を通じて医学を学ばせていただくことへの感謝の念を持ちながら、医療チームの一員として真摯に行動することが求められています。 本学におけるS D章授与式は、医療系大学間共用試験実施評価機構が設立され共用試験 (Computer Based Testing: CBT、および Objective Structured Clinical Examination: OSCE) が開始された平成十七年度より行われ、今回で十九回目となります。さらに平成二十六年からは、共用試験の合格者に対して、全国統一質保証システムの一環として、全国医学部長病院長会議がS D認定証を付与することとなりました。つまり、S D章は、臨床実習生の身分証 (I D) であると同時に、臨床実習を開始するための必要な知識と技能を身につけた証でもあります。

授与式では新五年次学生全員がBSLユニフォームとしての白衣姿で臨みました。例年ですと学生がOSCE等でお世話になった模擬患者さんや附属病院関係者も参加されるのですが、今年も、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響で最小限の参加者の下で挙行されました。S D章授与式は、初めに廣田和美医学部長と学務委員長の挨拶があり、次いで大



1. 私は、人類への奉仕に自分の人生を捧げることとを誓います。
2. 私は、学び得た医学知識をもとに、良心と尊厳をもって医学の務めを果たします。
3. 私は、生命の始まりから人命を最大限に尊重し続けます。また、人間の性の法理に反して医学の知識を用いることはしません。
4. 私は、患者の健康を私の第一の関心事とします。
5. 私は、私への信頼のゆえに知り得た患者の秘密を、たとえその死後においても尊重します。
6. 私は、私を教へ導く人々に尊敬と感謝の念を捧げます。
7. 私は、私の自由意志に基づき名誉にかけてこれらのことを厳粛に誓います。

なお、この「誓い」を常に心に留めて臨床実習に臨むよう、付与されたS D章の裏には、「誓い」が印刷されています。S D章授与式の目的を十分に理解して、五年次から始まる臨床実習に真摯に取り組んでほしいと思います。

「弘前大学医学部臨床実習生の誓い」 臨床実習生の一 人として医療の現場に参加するに際し、 1. 私は、人類への奉仕に自分の人生を捧げることとを誓います。 2. 私は、学び得た医学知識

令和4年度 医学科学学位記伝達式

学務委員長 鬼島 宏
(医学教育学講座 教授)



令和五年三月二十三日午後四時三十分から基礎大講堂において、令和四年度学位記 (医学士) 伝達式が、福田眞作学長、大山西力附属病院長、ならびに澤田美彦 学部長から一人一人に学位記が伝達され、医学部長挨拶では新型コロナウイルス感染症拡大の情勢下であるが、この困難も必ず糧となるはずであるから、今後も努力を継続して医療に貢献してほしいとの激励がありました。 学部長からは一人一人に学位記が伝達され、医学部長挨拶では新型コロナウイルス感染症拡大の情勢下であるが、この困難も必ず糧となるはずであるから、今後も努力を継続して医療に貢献してほしいとの激励がありました。



謝辞も、昨年度と同様に学位伝達式と同じ会場の基礎大講堂で短時間ながら行われ、学生代表により学生生活の想い出と、医師となり医療を担ってゆく抱負が語られました。ソーシヤル・ディスタンスに留意しながらの本町キャンパス内には、男子卒業生の凛々しいスーツ姿、女子卒業生の華やかな袴姿・着物姿が見受けられ、厳粛な中にも華やかな卒業の雰囲気を感じられました。 今回、医学部医学科の卒業生は百三十名であり、地域定着枠 (AO入試入学、前期日程定着枠入学、学士編入試青森県枠) を中心とした半数以上の卒業生が青森県内で臨床研修を行い、弘前医療圏での活躍が期待されています。多くの学生が勉学の苦勞を乗り越え、さらには医師国家試験合格の直後でもあり、学位記授与式・伝達式の当日は笑顔

第117回医師国家試験結果 ならびに令和4年度卒業生の進路状況

学務副委員長 富田 泰史
(循環器腎臓内科学講座 教授)

令和五年二月に実施された第百十七回医師国家試験の結果が公表されました。全体の受験者数は一万二千九百九十三人 (うち新卒九千四百五十九人)、合格者数は九千四百三十二人 (八千九百七十二人) であり、合格率は九一・六% (九四・九%) でした。設置主体別の新卒者の合格率は、国立九五・四%、公立九七・一%、私立九四・六%でした。 本学の既卒、新卒を含めた受験者数は百五十一人、合格者数は百三十三人であり、合格率は八八・一%でした。この割合は残念ながら全国ワーストでした。新卒者だけで見ても、合格率は九一・五%であり (受験者数百三十人、合格者数百十九人)、全国ワースト三でした。 昨年度の新卒者合格率も九一・七%であり、残念ながら本学の合格率は二年連続して低迷しています。 今年度の結果を詳細に検討すると、留年を経ずに六年間で卒業した学生の合格率は九五・三%と全国平均とほぼ同等であるのに対し、

の花が咲いていました。 一学年全員が集合する機会には、多分これが最後ではなからうかと思えます。弘前大学医学部医学科卒業という誇りを背負い、これからは切磋琢磨して、全国で活躍してくれることを願うものです。

H29～R4 卒業生進路状況

| | H29年度 卒業生進路 | | H30年度 卒業生進路 | | R1年度 卒業生進路 | | R2年度 卒業生進路 | | R3年度 卒業生進路 | | R4年度 卒業生進路 | |
|------------|-------------|--------|-------------|--------|------------|--------|------------|--------|------------|--------|------------|--------|
| | 人数 | % | 人数 | % | 人数 | % | 人数 | % | 人数 | % | 人数 | % |
| 青森県 | 56 | 41.2% | 53 | 44.9% | 60 | 48.4% | 54 | 49.1% | 68 | 46.9% | 56 | 43.1% |
| 北海道 | 3 | 2.2% | 3 | 2.5% | 4 | 3.2% | 4 | 3.6% | 2 | 1.4% | 3 | 2.3% |
| 青森県以外の東北地方 | 15 | 11.0% | 9 | 7.6% | 13 | 10.5% | 12 | 10.9% | 12 | 8.3% | 21 | 16.2% |
| 東京以外の関東地方 | 27 | 19.9% | 25 | 21.2% | 22 | 17.7% | 20 | 18.2% | 24 | 16.6% | 19 | 14.6% |
| 東京都 | 4 | 2.9% | 10 | 8.5% | 4 | 3.2% | 2 | 1.8% | 7 | 4.8% | 5 | 3.8% |
| 中部 | 14 | 10.3% | 9 | 7.6% | 11 | 8.9% | 10 | 9.1% | 8 | 5.5% | 8 | 6.2% |
| 近畿以西 | 6 | 4.4% | 7 | 5.9% | 4 | 3.2% | 5 | 4.5% | 9 | 6.2% | 6 | 4.6% |
| 国試不合格・その他 | 11 | 8.1% | 2 | 1.7% | 6 | 4.8% | 3 | 2.7% | 15 | 10.3% | 12 | 9.2% |
| 合計 | 136 | 100.0% | 118 | 100.0% | 124 | 100.0% | 110 | 100.0% | 145 | 100.0% | 130 | 100.0% |
| 医師国家試験合格者 | 125 | 91.9% | 116 | 98.3% | 118 | 95.2% | 107 | 97.3% | 132 | 91.0% | 119 | 91.5% |

留年を一度でも経験した学生の合格率は七三・九%と低いことがわかります。新型コロナウイルス感染症拡大により、授業や臨床実習が大きく制限された影響は否定的ではありませんが、本学に限ったことではありません。留年を経験した学生に對する勉学ならびに精神的サポート体制のさらなる充実が求められています。 続いて、令和四年度卒業生の進路状況をご報告いたします。青森県は五十六人 (四三・一%) であり、昨年と比較して低下していますが、ほぼ例年並みの人数です。今年度の特徴として、青森県以外の東北地方が二十一一人 (二六・二%) と増加している一方で、東京都を含む関東地方は二十四人 (一八・四%) と、やや低下しています。出身地の分布が研修病院の選択にも影響しているようです。既に初期研修が始まり、医師として歩み出していることと思えます。

令和5年度

入学試験報告

医学部入試専門委員長 上野 伸哉 (脳神経生化学講座 教授)

令和5年度の医学部入学試験は例年通り総合型選抜II、一般選抜(前期日程)、学士編入学試験(2年次編入)の3種類の形態にて行われ、大きな問題もなく無事に終了いたしました。毎年年度、医学部の教員の方々は試験監督および面接員として、また入試事務関連では多くの事務の方々にご協力いただき医学部入試を実施しています。さらに今年度は医学部入試に加えて共通テストの実施も医学部が担当しましたが、こちらも滞りなく行われました。紙面を借りて、ご協力いただいた教員、事務の方々に深謝いたします。さて、志願者倍率の資料をご参照ください(表1、表2)。前年度の志願者倍率と比較すると、今年度の総

表1. 志願者倍率 (カッコ内は受験者倍率)

| 年度 | 総合型選抜 ※R2までAO入試 | 一般選抜 前期日程 | 計 |
|-----|--------------------|---------------|-------------|
| H25 | 3.03 (3.03) | 13.34 (11.87) | 9.49 (8.56) |
| H26 | 2.10 (2.10) | 13.40 (11.72) | 9.18 (8.13) |
| H27 | 2.17 (2.17) | 13.67 (11.83) | 8.85 (7.78) |
| H28 | 2.50 (2.50) | 15.39 (13.53) | 9.63 (8.61) |
| H29 | 2.70 (2.68) | 7.81 (6.78) | 5.53 (4.89) |
| H30 | 2.23 (2.23) | 8.22 (7.09) | 5.71 (5.05) |
| H31 | 2.19 (2.19) | 9.82 (7.00) | 6.62 (4.98) |
| R2 | 2.12 (2.12) | 5.03 (4.16) | 3.94 (3.39) |
| R3 | 1.83 (1.83) | 4.06 (3.34) | 3.13 (2.71) |
| R4 | 2.43 (2.43) | 5.34 (4.40) | 4.25 (3.36) |
| R5 | 2.43 (2.43) | 6.89 (5.66) | 5.21 (4.45) |

募集人員:

AO入試(すべて地域定着枠)は、平成25年度までは定員40名、平成26年度42名、平成27年度47名、平成28・29年度50名、平成30・31年度47名、令和2年度42名、令和3年度から総合型選抜に名称変更し47名、令和4・5年度42名。前期日程の定員は、平成25年度67名(定着枠17名)、平成26年度70名(定着枠20名)、平成27年度65名(定着枠15名)、平成28・29年度62名(定着枠12名)、平成30・31年度65名(定着枠15名)、令和2年度70名(定着枠20名)、令和3年度65名(定着枠15名)、令和4・5年度70名(定着枠20名)。総合型選抜(旧:AO入試)と前期日程を合わせた定員は、平成25年度107名、平成26年度~令和5年度が112名。

表2. 志願者倍率 学士編入学試験 (カッコ内は受験者倍率)

| 年度 | 学士編入学 |
|-----|---------------|
| H25 | 15.90 (15.15) |
| H26 | 17.35 (16.90) |
| H27 | 15.70 (14.55) |
| H28 | 17.40 (15.60) |
| H29 | 5.25 (4.95) |
| H30 | 5.55 (5.35) |
| H31 | 7.30 (6.90) |
| R2 | 8.00 (7.70) |
| R3 | 10.25 (9.15) |
| R4 | 12.55 (11.55) |
| R5 | 10.45 (9.65) |

表3. 地域別入学者数 (AOおよび前期入試の合計)

| 年度 | 青森県 | 東北5県 | 北海道 | その他 | 計 |
|-----|------------|------------|---------|------------|-------------|
| H25 | 42 (23/19) | 10 (6/4) | 4 (1/3) | 51 (37/14) | 107 (67/40) |
| H26 | 46 (23/23) | 15 (6/4) | 2 (0/2) | 49 (34/15) | 112 (66/40) |
| H27 | 44 (30/14) | 17 (11/6) | 5 (4/1) | 46 (26/20) | 112 (71/41) |
| H28 | 49 (23/26) | 12 (7/5) | 1 (1/0) | 50 (32/18) | 112 (63/49) |
| H29 | 48 (21/27) | 19 (8/11) | 7 (4/3) | 38 (17/21) | 112 (50/62) |
| H30 | 45 (30/15) | 14 (5/9) | 5 (2/3) | 48 (22/26) | 112 (59/53) |
| H31 | 52 (27/25) | 13 (8/5) | 4 (3/1) | 43 (18/25) | 112 (56/56) |
| R2 | 39 (21/18) | 21 (11/10) | 6 (4/2) | 46 (29/17) | 112 (65/47) |
| R3 | 42 (28/14) | 21 (11/10) | 2 (2/0) | 47 (32/15) | 112 (73/39) |
| R4 | 43 (24/19) | 13 (6/7) | 3 (1/2) | 53 (28/25) | 112 (59/53) |
| R5 | 49 (29/20) | 4 (4/0) | 8 (3/5) | 51 (24/27) | 112 (60/52) |

表4. 令和6年度入試日程 (予定)

| | |
|--------------------------|------------------------------------|
| 令和5年10月下旬 | 総合型選抜(ケーススタディの自学自習、個人面接) |
| 令和5年11月下旬 | 学士編入学試験(第2年次) 第1次選抜(学力試験) |
| 令和5年12月中旬 | 学士編入学試験(第2年次) 第2次選抜(個人面接) |
| 令和6年1月13日(土) 1月14日(日) | 大学入学共通テスト |
| 令和6年2月下旬 | 一般選抜 前期日程(学力試験) 一般選抜 前期日程(個人面接) |

入試は新入生が入学する時期で呼称されますので、今年度は令和6年度総合型選抜・令和6年度学士編入学試験(第2年次)・令和6年度一般選抜(前期日程)が実施されます。

青森県知事と新入生との懇談会

学務委員長 鬼島 宏 (医学教育講座 教授)

三村申吾青森県知事と弘前大学医学部医学科学生との懇談会は年二回行われています。県知事と医学科学生との定期的な懇談会は、全国的に見ても極めて稀で貴重な会となっております。春は新入生を対象に、秋は五年生を対象としたものです。この懇談会がスタートしたのは平成十七年のことであり、その後、十九年連続で開催されています。今回は令和五年五月十二日に医学部基礎大講堂で、医学科新入生全員が出席して実施されました。県側からは三村知事に加え、小川克弘良医師育成支援特別顧問、永田翔健康福祉部長らが出席し、福田眞作学長、廣田和美医学部長、袴田健一附属病院長の列席のもと、学務委員

長の司会で行われました。懇談会の初めに三村知事からは「青森県の目指す医療の姿」と題した講演がありました。青森県基本計画「選ばれる青森」への挑戦(二〇一九~二〇二三)に基づき、地域を支える保健・医療・福祉包括ケアシステムを築くために、さらには青森県の医療の未来に明るい展望を持つために何をすべきかの説明がなされました。平成十七年から継続している「弘前大学と連携した県の取り組み」によつて、共創の場形成支援プログラム(CO-INEXT)

やポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業にも採択されたことが紹介されました。医療従事者の育成・定着が確実に成果を上げており、「良医を育むグランドデザイン」に基づいて医師が学ぶ環境を整えていることが示されました。青森県と弘前大学医学部・関係医療機関が連携し、地域医療を志す医師のキャリアアップをサポートしてゆくことが強調されました。

現在、青森県を含め自治体からの寄附講座が設置されており、超高齢化や新・専門医制度を踏まえ、弘前大学を起点とし県内の大小医療機関を循環する本県オリジナルの地域循環型医師育成システムに関する総合的な研究を通じて、地域医療の充実に寄与することを目指しています。これに基づき、新入生の多くが卒業後に青森県に定着し、大学が担う教育・研究機能の一翼を担ってくれることを期待しています。



の列席のもと、学務委員

第11回世界自閉症啓発デー 特別講演は弘前

神経精神医学講座 教授 中村 和彦

平成十九年の国連総会で、毎年四月二日を「自閉症啓発デー」とすることが決議されました。毎年四月二日、四月八日を発達障害啓発週間とし、世界各国で自閉スペクトラム症をはじめとする発達障害の啓発のためのシンポジウムやランドマークのブルーライトアップなどが行われています。本学では、平成二十五年から弘前市および弘前市教育委員会のご後援のもと、弘前自閉症児者親の会と合同で特別講演会やシンポジウムなどを主催しています。

今年四月二日にオンラインで特別講演会を開催しました。演者は、青森県立保健大学 健康科学部社会福祉科 講師の田中尚樹先生で、「自閉スペクトラム症の人たちから教わったこと」と「四半世紀+aのお付き合いから」という演題で講演頂きました。田中先生は、特定非営利活動法人「アスベ・エルデの会」で発達障害をもつ方々を子どもから大人まで長期間にわたり支援をされてきたほか、厚生労働省「障害児・発達障害者支援室」発達障害施策調整官も務められました。発達障害者支援に関する豊富なご経験から、当事者の方々の声やエピソードを交え、具体的な例を挙げ

ながらお話しして頂きました。当事者の方々に寄り添った田中先生だからこそお話しできる内容で、発達障害の理解を深めることができました。また、厚生労働省の発達障害施策調整官のご経験から、国としての支援の方向性についてもお話しして頂き、今後の流れを掴むためにも大変勉強になる内容(次ページへ続く)



令和5年4月2日自閉症啓発デーライトアップ

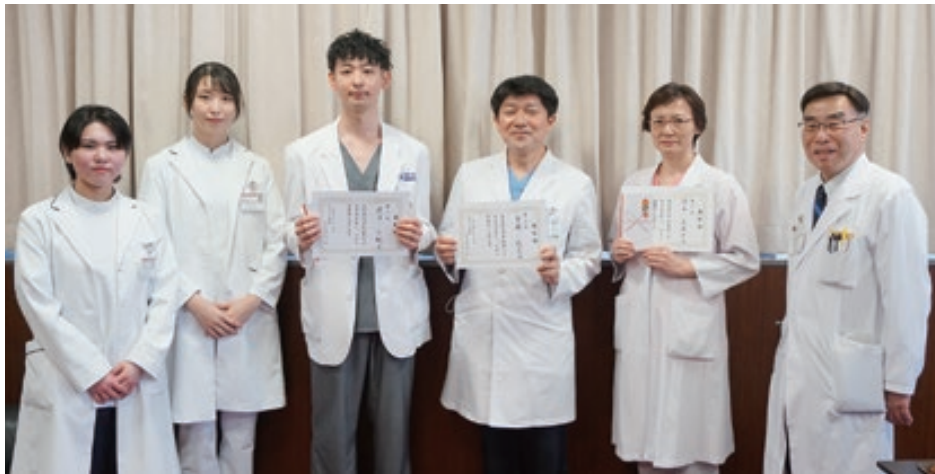
(前ページより)
でした。コロナ禍を考慮しオンラインでの開催となりましたが、弘前市内外の医療機関や障害福祉施設などから沢山の方々にご参加いただき、この場を借りて御礼を申し上げます。また、弘前市から後援頂き、

櫻田宏市長のご挨拶を賜り、四月二日の日没から弘前城天守閣のブルーライトアップも行われました。自閉症啓発デーをきっかけに、一人でも多くの方々が発達障害について知り、少しでも考えて頂ければ幸いです。

令和4年度

ベスト指導医賞表彰式

総合臨床研修センター 副センター長 大沢 弘
(総合診療部 准教授)



令和四年度のベスト指導医賞表彰式は、令和五年三月十四日(火) 十六時三十分から病院長室において行われた。本賞は、クリニカルクリニックの臨床

実習を終えた五年次学生が自主的に、年間を通じて指導頂いた各科指導医の先生方の中から投票によって選ぶものである。今年度は医学教育センターから提

案された選挙の多数の魅力あふれる指導医の中から、ベスト指導医賞には神経科精神科片貝公紀先生が、優秀指導医賞には脳神経外科齊藤敦志先生と産科婦人科横山美奈子先生が選出された。表彰式では五年生代表から表彰状が贈呈され、さらに加藤博之総合臨床研修センター長から副賞が手渡された。ベスト指導

医賞授与式はもともベスト研修医賞授与式の中で実施されてきた。ベスト研修医賞授与式は、学生、研修医と各科指導医との交流の場を兼ねた形で実施されてきたため、新型コロナウイルス感染症対策の観点から令和二年度以降行われていない。

令和四年度で退職される加藤センター長にとって最後のベスト指導医賞授与式となった。本学の卒業後教育に心血を注ぎ言葉では言い尽くせない多大な貢献をされてきた加藤センター長が創設したベスト研修医賞とベスト指導医賞が、今後も継続・発展することを願ってやまない。

ベスト指導医賞を受賞して

神経科精神科 助手 片貝 公紀

令和四年度ベスト指導医をいただきました。投票して下さった新六年生の皆さんありがとうございます。精神科での二週間は皆さんにとっていかがだったでしょうか。

鍵のかかった閉鎖病棟、保護室など、一般病棟とは異なる雰囲気緊張したと思います。更に今年の実習のオリエンテーションで、医療者が患者さんとのコミュニケーションで行う自己開示を中心として「素の自分」をどの程度見せてよいのか」という点についてもお話ししました。私たち医療者は、会話の中で患者さんと個人的な内容を話すことは珍しくありません。個人の属性や考え、経験などに関する情報の提示を「自己開示」と呼びます。自己開示の多くは患者さんに安心感を与えたり、話を聞き行動を促したり、信頼関係を構築したりする内容で活用されることが多いですが、ある報告では医療者が行う自己開示の八五%は臨床的な意味がなく、時には害となるものと言われています。自己開示による不利益を考えると、開示を制限

する方向になりがちかもしれません。しかし過剰に制限するとそっけなくなり一人の人間として患者さんに接する観点が抜け落ちてしまいます。そんな正解の無い話をされた後に担当患者さんへのように声をかければ良いのだろうかと思ったりもしますが、精神科の実習が終わる頃になると、多くの新六年生が患者さんと適切な距離感で信頼関係を築いていて、感心して見ていました。

実習中に何度か講義をして「認知症」「せん妄への対応」「パーソナリティ障害の患者さんとの関わり方」「死にたいと言われた時の対応」など、どの診療科でも出会う場面や疾患についてお話をしました。他科に決めている先生方も一生懸命聞いてくれていて、嬉しく思いました。皆さんが働く時に少しでも役に立てば幸いです。

優秀指導医賞を受賞

脳神経外科学講座 教授 齊藤 敦志

この度、優秀指導医賞を受賞しましたことは大変有難く存じます。就任から一年を迎えますが、クリクラの学生さんたちの求める臨床実習とは何か、効果的な学習方法とは何か、手探りの連続でした。一週間という短い期間で、臨床講義では伝えられない脳神経外科の魅力や伝え、これから医師を目指す学生さんの展望を広げることについてお話をしました。まず脳神経外科疾患の概要などの座学は止めて、講義は脳神経外科医のキャリアデザインを中心に行いました。五感を発揮して学習することを大切に

呈する患者さんの症候を所見として自分で確認できること、症状や画像所見を言語化して伝達できるように日々の回診から学ぶスタイルを目指しました。顕微鏡下手術を見学し手洗いをしながら参加してもらいました。徒に長時間の参加は避けるようにバイパス手術の

ハンズオンを導入しました。最終試験として質問を行いこれまで膨大な過去問から試験を行っていましたが、症例の経過や画像所見を提示し、一緒に治療方針までの思考過程を探るDiscussion形式に変えてみました。学習発表の場はレポート作成として、症例報告を学習発表ではなく学会発表形式とし、聴衆の興味を第一としたpresentationに形を変えました。これらの変革が功を奏したかはいまだに試行錯誤の渦中ですが、学生の皆さんに関心を

持つていただけたことはとても有難く思います。今後とも柔軟性をもってさらなる変革を継続していくやる気をもりました。我々は指導にあたる側ではありませんが、学生の皆さんの反応や学習成果は、我々の指導方法を映し出す鏡でもあります。学びと反省を繰り返す我々もより良い指導医へ成長していきたいと思っています。この度は誠に有難うございました。

優秀指導医賞をいただき

現弘前総合医療センター産婦人科

横山 美奈子
(産科婦人科 助手)

昨年引き続き、優秀指導医賞を頂き非常に嬉しく思っております。投票してくれた学生の皆様、ありがとうございます。

令和三年度、私は産婦人科の産科グループに所属していたため、お産の素晴らしさ、生まれてきた赤ちゃんの尊さを学生の方々に伝えました。令和四年度は婦人科グループに所属していたため、糸結びや縫合などの手術の基本、CTや

MRIなどの画像の見方、手術をした患者の術後の管理について指導しました。指導という言葉を使いましたが、私は、自分の子供と年代である学生との触れ合いを楽しんでおりました。子供達が小さかった時、遊び、お料理、習い事など、何か新しいことにチャレンジして満足した笑顔を見るのが好きでした。クリクラは五年生の方が座学から臨床の現場にデビューするタイミングです。できるだけ多くの臨床経験を積めるよう、十分練習した上で手術中の縫合、術後患者の診察、点滴ルート確保の練習などを積極的に体験してもらおうようにしました。



「頑張って練習したので上手にできた」、「初めて体験したより難しかった」、「思っていたより難しかった」などの成功体験、失敗体験を聞いて、将来どのような医師になってくれるのかと期待が膨らみ、私にとっても有意義な時間でした。

最近、嬉しかったことは、男女問わず産婦人科に興味を持つていただけたことです。また産婦人科のセミナーや学会に参加していただけることは、私達産婦人科医にとって励みになります。今まで参加して下さった方々、本当にありがとうございます。今年九月には弘前市で北日本産科婦人科学会などもありますので、学生の方々も是非ご参加ください。最後に何か産婦人科に関する事で質問などがあれば、大学病院および県内の関連病院の産婦人科医に声をかけてください。今年度、私は弘前総合医療センターに転勤になりました。それでもお待ちしております。

学生だより

一年間を振り返って

医学生としての最初の一年を振り返って

医学科二年 宮野 紗也子

二〇二二年四月、新しい世界への大きな希望と不安を抱きながら大学生活をスタートしたことが、昨日のことのように思い出されます。高校生の頃までにはなかった出会いや学び、経験がたくさんあり、充実した一年でした。

教養教育科目では、学部や教科の垣根を越えて幅広く学ぶことができました。特に、前期に履修した留學生と交流する授業が一番印象に残っています。高校の時とは新型コロナウイルス感染症の影響で、海外の方との交流はオンラインがメインでしたが、この授業では、新型コロナウイルス感染症による渡航制限が緩和されたことにより、弘前大学で学んでいる留學生の方々と直接会って交流することができました。直接顔を合わせ、様々なことを語り合い交流できたことは、とても貴重な経験でした。

専門科目では、膨大な量の学習内容とその難しさに圧倒されながらも、医学の奥深さを知り、医学に対する興味をさらに増やしました。高校では生物を履修していませんでしたが、生物やヒトの体について知らないことが多く、各教科の先生方の授業を受けて、初めて知ることや驚きの連続でし

一年間を振り返って

医学科二年 佐藤 祐希

大学一年生として過ごした一年間を振り返りたいと思います。まず、勉強面についてです。大学では高校と違い、自分の興味のある授業を好きなように選択し、自分だけの時間割を作ることができました。医学科では一年生の間しか教養科目を履修できないため、悔いが残ることが無いように様々な科目を受講しました。前期の間は専門科目の授業がほとんど無かったため、教養科目を中心に学習しました。後期になるといきなり専門的な授業が始まりました。高校で生物を選ばなかった私にとって専門的な授業は難しかったですが、学習していく内に理解できるようになり、そのことは達成感があり楽しかったです。この知識が二年生前期で行った解剖実

習でも生きていたと実感しましたし、将来の医師としての仕事に繋がっていくと考えています。次に、サークル活動についてです。私は、主に弘前大学フイルハーモニー管弦楽団とKIDSという医学部のテニスサークルで活動しています。フイルでは高校から始めたトロンボーンを続けていて、KIDSでは大学から新しくテニスを始めました。勉強以外にも楽しめることがあって、とても充実した生活を送っています。最後に課外活動についてです。高校ではアルバイトが禁止だったので、大学で初めてアルバイトをしました。お金を稼ぐことの難しさを知ることや、アルバイト先で様々な人と出会うことで自分の世界を広げることができました。今はオンライン

関連病院勤務報告

地域の病院で研修して

青森県立中央病院 整形外科 長 沖 隼 英

青森で医師として働くようになり早くも九年目となりました。私は生まれも育ちも県外でしたが函館ラ・サール高等学校を卒業し、弘前大学へ進学し、現在まで青森で過ごしてあります。初期研修を行った黒石病院時代では聞きなれなかった青森の方言も、現在は違和感なく会話できるようになりました。初期研修医時代に病棟の患者さんが「先生、つづらごになった」と私に話してくれた際に、近くの看護師に「つづらごって何ですか？」と質問

してしまい、带状疱疹を知らない研修医がやってきたと噂されたのもいい思い出です（もちろん带状疱疹は知っていました）。黒石病院の初期研修では医師としての基本的なスキルの習得のほかに、青森の患者さんや病院のスタッフと接する中で青森の言葉や接し方も学べたと思います。また自分が志していた整形外科の研修期間を多くとることができたため、その後の自分

の塾講師のアルバイトを中心にやっています。長期休みなどには他のアルバイトにも挑戦してみたいです。また、春休みにはオンラインで三週間カナダに留学して、英語を学びました。この留学プログラムでは韓国の大学生と共に、カナダの文化や歴史などを学び、様々なテーマで英語でのディスカッションやプレゼンをしました。オンラインではありますが英語漬けの日々を送り、自身の英語力を向上させることができました。今度機会があれば実際に現地にも行ってみたいと考えています。これから更に専門的な科目が増えていくと思いますが、大学生でしかできないことを楽しみながら頑張っていきたいです。



初期研修 黒石病院整形外科にて

の医療にも大きくプラスになったと感じております。学生さんや研修医の方から県外で働くことは考えなかつたのかと聞かれることがありますが、確かに関東や関西で働くこと珍しい症例や高度な最先端医療にかかわることが可能となるかもしれません。私が青森の研修でとてもよかったと感じるのは、今までの九年中で症例のとりあいになることは一度もなかったことです。自分の力が及ばずに指導医の先生に診ていただいたことがありませんが、経験症例が少なく困ったことはありません。初期研修時代から手術が必要な患者がきた際に、指導医の先生による丁寧な指導の上で多くの手術を経験させていただきました。私は整形外科なので

地域の病院で研修して

八戸市立市民病院 呼吸器科・内科 土橋 雅樹

内科系の事情は詳しくはありませんが、都会の病院に行ったら友達から聞く話では症例のとりあいが生じるのは稀なことではないそうです。もちろんその分、多少の忙しさはありました。夕方に開放骨折がやってきて夜中に手術することもあります。しかし一人で対応するのはではなく上級医と一緒に手術を行い、その後軽く

医師八年目、呼吸器内科の土橋雅樹と申します。生まれは八戸ながら、幼少期小学校を弘前、中学校・高校を八戸で過ごした後に弘前大学医学部医学科に入學し、平成二十八年に卒業しました。学生時代の呼吸器内科の講義で肺という臓器に興味を持ち、BSLの実習で呼吸器内科の先生方のご指導で更に呼吸器領域の奥深さを知りました。また、青森県内では呼吸器内科医の数が特に少ない状態であることを学生実習や初期研修を通じて体感し、八戸市立市民病院での初期研修を終えた後、三年目に弘前大学呼吸器内科講座に入局させて頂きました。現在は地元かつ初期研修を行った八戸市立市民病院で呼吸器内科医として勤務しております。

呼吸器内科の現状として、肺癌など呼吸器内科領域への専門の検査・治療を行うことのできる病院が少なく、一つの病院でカバーする地域が広いことが特徴です。私の勤務している八戸市立市民病院でも、八戸市近辺のみならず、十和田

また、患者さんおよび御家族ファーストの医療を提供できるよう、いつも考えながら方針を模索しております。退院される際に本人および御家族からの「ありがとうございます」と言葉が頂けたときの充足感筆舌に尽くしがたいものと感じております。

青森県は、残念ながら現在も短命県返上には至っていない状態です。その原因は複数あるとされていますが、中でも医師不足は我々が直接関わる要因です。また、県内の高い喫煙率も要因であり、その点についても、我々が診療の場で啓蒙

(次ページへ続く)

写真コラム(20) 南塘グランド

脳血管病態学講座
教授 今泉 忠 淳

新寺町の五重塔のある最勝院参道前のカーブから本町方面へ向かう道路に立ってみると、その道路が走っている場所は、自然の地形ではなく、人工的に作られた堤(土塁)であることに気づきます。堤からは、南塘グランドを見下ろし、医学部や附属病院の向こうに岩木山を望むことができます【写真1】。南塘グランドは、江戸時代には南塘池という名前の大きな人工の溜池でした。南塘池は、慶長18年(1613年)に、弘前城の南東の防衛線を強化する目的で、土塁を築き寺沢川をせき止めて作られたそうです。この堤や南塘グランドの一帯は、「新寺構」として国指定史跡になっています。この池には、岩木山が映ったことから、「鏡池」とも呼ばれていたようです。当時の様子は、百川学庵(1799-1849)の「鏡池春景(弘化3年)」という絵【写真2】を見るとよくわかります。この絵では、堤には桜と松が並んでいて、桜が咲いているのがわかります。江戸時代には、弘前城には桜は無く、この南塘池の堤が桜の名所だったらしいです。南塘池は明治以降に埋め立てられ、現在は弘前大学医学部のグランドになっていますが、その経緯については、資料を見つけることができませんでした。ご存知の方がおられましたら、ご教示いただけると幸いです。

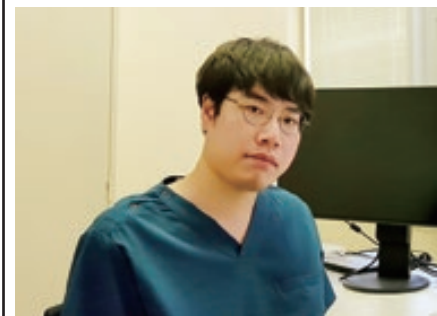


【写真1】南塘グランド 2023年。

【写真2】高岡の森弘前藩歴史館令和4年度冬の企画展「岩木山と岩木川」のポスターを撮影 2023年。左下に五重塔が描かれている。



【写真2】高岡の森弘前藩歴史館令和4年度冬の企画展「岩木山と岩木川」のポスターを撮影 2023年。左下に五重塔が描かれている。



弘前大学大学院医学研究科法医学講座の対馬好と申します。私は青森県五所川原市出身です。弘前大学卒業後はつがる総合病院で二年間の初期研修を終えた後、当講座で勤務しています。学生の頃から法医学に興味があり、六年生のクリニカルクラークシップで法医学講座を選択した折には(現在は選択できないよう

です)、短期間ではありましたが、司法解剖の現場に参加していました。学生時代から法医学志望であることを人前で表明すると、「なぜ？」と疑問をもつ方々が多くおりました。もし現在、私がそのような学生を前にすれば同様の疑問を抱くと思います。ただ、私は幾度となく法医学の道に進む理由を尋ねられてきました。一度も明確に答えられていません。なんとなく、としかいいようがないというのが正直なところだと思います。理由がないわけではありません。元々、医学部に入る前から人体についての関心があった、実際に解剖に参加してみたところ興味深かった、生きてる患者と違い、変化を観察することができない御遺体という「結果」の特殊性、その

所見を観察した上で論理を構築していく面白さなど、諸々理由は挙げられるのですが、自分自身の中で一本心が通った「これぞ私が法医学の道に進んだ理由」というものはみつけれれていません。というわけで、私はなんとなく法医学講座で従事しています。ニッチでマイナーな法医学ですが(ニッチでマイナーであることも私が法医学を選んだ理由です)、実際どんな業務を行っているかという、主に司法解剖がメインであることも私が法医学を選んだ理由です。警察が検視し解剖が必要とされると、当講座に依頼が入り、解剖が施行されるという流れになります。現在、教授が執刀し、私は補助となる場合が多いですが、ケースによっては私が執刀という形で経験

れるのだそう。悪い見方をすれば、習慣は日々の苦痛から解放されるための人間の常套手段ともいえる。我々の日常で考えると、受け身であつても良い環境に成長できることになる。私の話で恐縮だが、当初に抵抗を感じた毎朝の勉強会が、しばらくすると感覚が麻痺し億劫を感じなくなつた経験がある。結局、この話は「環境を大切に」、「何事も良い習慣を身につけよう」に到着するが、この年になり母の教えが少し理解できたという話でもある。

若手教員・医師だより

若手教員・医師だより

眼科 助教 前田 奈津姫

弘前大学医学部附属病院眼科に所属しております前田奈津姫と申します。眼科医として十一年目を迎え、すでに若手ではないのですが、

個人的な近況や教室のことを書かせていただきます。当科は昨年、上野新教授を迎え、またここ数年は喜ばしいことに毎年複数人の

後輩が増えており、教授も入れて総人数なんとか十人、時には一桁という時代を入局以来長らく過ごしてきた私にとっては、いまが教室の転機であると感じています。眼科は一般的には目薬処方やコンタクトレンズのイメージが強いかもしれませんが、大学の眼科は特に外

科色が強く、その多くは局所麻酔で行われます。一件あたり三十分から二時間の手術が、術日は平均で六件程あるので、長時間・全麻の多い他科とは一線を画しているなど、毎日の手術進行表を見る度に思いますが、手術の中でも、網膜剥離や、糖尿病網膜症といった目の奥の手術を硝子体手術と言いますが、私は初期研修医の際にその硝子体手術の美しさに惹かれて眼科を志しました。数年前に、県立中央病院へ常勤として勤務する機会があり、かなりの症例数を経験させていた

ンキリで、自分の技術はまだ未熟です。この先どこまで到達できるかわかりませんが、日々研鑽を積んでいければと存じます。転機という個人的なところでは現在一歳の娘を子育て中で、約一年の産休・育休から復帰したばかりです。復帰の際には意気込んで、以前と同様にフルで働く気でいきましたが、いざ始まってみると、子どもの発熱で休むだけでなく、子どもから風邪をもらって自身の体調を崩すというトラブルもあり、一筋縄ではいかないものだと痛感していま

分には、短期間ではありましたが、司法解剖の現場に参加していました。学生時代から法医学志望であることを人前で表明すると、「なぜ？」と疑問をもつ方々が多くおりました。もし現在、私がそのような学生を前にすれば同様の疑問を抱くと思います。ただ、私は幾度となく法医学の道に進む理由を尋ねられてきました。一度も明確に答えられていません。なんとなく、としかいいようがないというのが正直なところだと思います。理由がないわけではありません。元々、医学部に入る前から人体についての関心があった、実際に解剖に参加してみたところ興味深かった、生きてる患者と違い、変化を観察することができない御遺体という「結果」の特殊性、その

(前ページより)を行うことで改善の見込める部分であるとも考えております。まだまだ勉強中で様々な先生方のご協力のもとで診療にあたり、青森県の医療を担っているという責任を感じるとともに、県の医療に

貢献しているという充足感もあり、やりがいを感じる日々を過ごしております。この充足感、やりがいを共有できる先生が一人でも増えることを祈っております。一緒に働ける日が来るのを心よりお待ちしております。



科色が強く、その多くは局所麻酔で行われます。一件あたり三十分から二時間の手術が、術日は平均で六件程あるので、長時間・全麻の多い他科とは一線を画しているなど、毎日の手術進行表を見る度に思いますが、手術の中でも、網膜剥離や、糖尿病網膜症といった目の奥の手術を硝子体手術と言いますが、私は初期研修医の際にその硝子体手術の美しさに惹かれて眼科を志しました。数年前に、県立中央病院へ常勤として勤務する機会があり、かなりの症例数を経験させていた

分には、短期間ではありましたが、司法解剖の現場に参加していました。学生時代から法医学志望であることを人前で表明すると、「なぜ？」と疑問をもつ方々が多くおりました。もし現在、私がそのような学生を前にすれば同様の疑問を抱くと思います。ただ、私は幾度となく法医学の道に進む理由を尋ねられてきました。一度も明確に答えられていません。なんとなく、としかいいようがないというのが正直なところだと思います。理由がないわけではありません。元々、医学部に入る前から人体についての関心があった、実際に解剖に参加してみたところ興味深かった、生きてる患者と違い、変化を観察することができない御遺体という「結果」の特殊性、その

私の母の口癖は「規則正しい生活をしなさい」である。これも私が怠惰な生活を好むからである。そんな中、某番組で紹介されたフランズの哲学者ドゥルーズの言葉に衝撃を受けた。彼は、「思考という積極的意思が人間の中にあると想定するのは哲学の犯す誤りである」と、つまり「人間は考えない動物である」と言う。こう述べる根拠は、「人間は習慣を好む」からだそうだ。習慣とは、「考えることなし」に同じ行動を繰り返すことであり、新しい刺激を無視することで維持さ

若手教員・医師だより

若手教員・医師だより

法医学講座 助手 対馬 好

コラム

医学部こぼれ話

私の母の口癖は「規則正しい生活をしなさい」である。これも私が怠惰な生活を好むからである。そんな中、某番組で紹介されたフランズの哲学者ドゥルーズの言葉に衝撃を受けた。彼は、「思考という積極的意思が人間の中にあると想定するのは哲学の犯す誤りである」と、つまり「人間は考えない動物である」と言う。こう述べる根拠は、「人間は習慣を好む」からだそうだ。習慣とは、「考えることなし」に同じ行動を繰り返すことであり、新しい刺激を無視することで維持さ

留学だより

泌尿器科 助教 成田拓磨

二〇二二年四月から米国 Sanford Burnham Prebys Medical Research Institute に留学しております。この度、医学部ウォーカーにおいて留学レポートをする機会をいただきました。

当研究所はカリフォルニア州南端サンディエゴにある生物学研究所です。近隣には全米オープンが開かれる Torrey Pines golf course があり、ノーベル賞受賞者を擁する Scripps Institution of Oceanography など多くの研究所が軒を連ねています。気候が大変良いところで、雨はほとんど降らず、夏は三十度を超えず、冬は〇度を下回ることはありません。素晴らしいビーチ（写真1）がたくさんあります。が、寒流の影響で海は冷たく、海水浴は真夏にしかできません。



図1. 研究所近くのビーチ

私の留学先である Yamanouchi 研究室（写真2）は、グリコサミノグリカンの領域において第一線で活躍するラボであり、弘前大学泌尿器科の博士研究員が代々留学してきました。私は、当科山本勇人先生が同ラボにおいて発見した細胞外ヒアルロン酸分解酵素「TNEM2」に着目し、その機能と役割を明らかにするべく、様々な実験の手法を学んでいます。現在、TNEM2の構造とmolecular mechanismを明らかにする仕事が佳境を迎えており、日々実験に励んでおります。今後は、膀胱粘膜を保護するグリコサミノグリカン層におけるTNEM2の役割や、TNEM2を発現させた免疫細胞による悪性腫瘍の新たな治療法についても研究を進めることができればと考えております。

留学だより

私は妻、小学生の長男、長女の四人で渡米しました。子供たちは親切なクラスメイトに恵まれ、現地に馴染むことがで



図3. Sequoia 国立公園の巨大な木々



図2. 研究室メンバー

臨床検査医学講座

臨床検査医学講座 教授 富田泰史

臨床検査医学講座は一九八七年に開設され、工藤肇先生が初代教授に就任されました。その後、保嶋実教授、萱場広之教授に引き継がれ、二〇二一年十二月から富田が循環器腎臓内科学講座と併任で責任者を務めております。スタッフは、齋藤紀先准教授（感染制御センター長、検査部副部長）、糸賀正道講師（感染制御部副部長）、皆川智子助教（検査部、診療講師）、土屋純一郎助教、そして私の五名であり、診療の屋台骨である臨床検査ならびに院内の感染対策、医学教育（臨床実習と四年生の講義）、臨床研究を、附属病院検査部ならびに感染制御センターと一体となって実施しています。

富田泰史教授は、敗血症患者における抗菌薬の適正使用の評価と Antimicrobial Stewardship（抗菌薬適正使用支援）活動に関する研究を精力的に実施してまいりました。最近では、ストレスマーカーとして注目されている3ヒドロキシ酪酸と、心身症、気管支喘息との関連性について研究を行っており、特に新型コロナウイルス感染症の後遺症として知られている「Long COVID」との関連性の研究は大変注目されています。糸賀講師は、新型コロナウイルス感染症の第7波の院内クラスターの解析を行い、軽症から急変する症例のリスク評価、入院患者における感染拡大防止の方策、免疫不全を伴う基礎疾患を有する陽性患者の解除基準など、今後の新型コロナウイルス感染拡大への対応にも有用と考えられるいくつかの結果を見出し、中々、軽症から急変する症例のリスク評価に関する研究をさらに深め、臨床検査値との関連性についても検討しており、その結果に注目が集まっています。

皮肉科専門医でもある皆川助教は、生物学的製剤使用中の乾癬患者におけるバイオマーカーを、血液検査とともにフローサイトメトリーを用いて検討しています。さらに皆川助教は漢方専門医・指導医でもあり、日本東洋医学会主導の

COVID-19陽性患者における漢方薬治療の有用性に関する臨床研究にも参加しています。二〇二一年度には、「医学部生を対象にした随証治療による漢方処方選択の確立」により日本漢方医学教育新興財団の研究助成を受賞し、漢方医学教育の推進に取り組んでいます。

左から土屋純一郎助教、齋藤紀先准教授、富田泰史教授、糸賀正道講師、皆川智子助教

動物実験施設

動物実験施設 施設長 上野伸哉 (脳神経生理学講座 教授)

動物施設長を兼任しています。脳神経生理学講座の上野です。医学部ウォーカーで紹介することは私が施設長を務めて以来、初めてのことで。しかし、動物実験施設の成り立ちの経緯から他の講座とはかなり異なる

施設に沿革および概要から始めたいと思います。実験動物飼育のための専用施設は昭和四十三年に基礎研究棟三階に基礎系動物飼育室設置までさかのぼります。その後昭和五十四年に弘前大学医学部附属動物実験施設の設置が認可され、昭和五十七年十月より

開所、同年十二月より実験動物の飼育が開始されました。以後、医学部のみならず他学部からも動物実験、動物飼育に利用され、主に生命科学研究支援にかかわってきました。この動物実験施設も、近年老朽化が進み、令和元年から二年を

動物施設長を兼任しています。脳神経生理学講座の上野です。医学部ウォーカーで紹介することは私が施設長を務めて以来、初めてのことで。しかし、動物実験施設の成り立ちの経緯から他の講座とはかなり異なる

施設に沿革および概要から始めたいと思います。実験動物飼育のための専用施設は昭和四十三年に基礎研究棟三階に基礎系動物飼育室設置までさかのぼります。その後昭和五十四年に弘前大学医学部附属動物実験施設の設置が認可され、昭和五十七年十月より

開所、同年十二月より実験動物の飼育が開始されました。以後、医学部のみならず他学部からも動物実験、動物飼育に利用され、主に生命科学研究支援にかかわってきました。この動物実験施設も、近年老朽化が進み、令和元年から二年を

研究室紹介



富田泰史教授は、敗血症患者における抗菌薬の適正使用の評価と Antimicrobial Stewardship（抗菌薬適正使用支援）活動に関する研究を精力的に実施してまいりました。最近では、ストレスマーカーとして注目されている3ヒドロキシ酪酸と、心身症、気管支喘息との関連性について研究を行っており、特に新型コロナウイルス感染症の後遺症として知られている「Long COVID」との関連性の研究は大変注目されています。糸賀講師は、新型コロナウイルス感染症の第7波の院内クラスターの解析を行い、軽症から急変する症例のリスク評価、入院患者における感染拡大防止の方策、免疫不全を伴う基礎疾患を有する陽性患者の解除基準など、今後の新型コロナウイルス感染拡大への対応にも有用と考えられるいくつかの結果を見出し、中々、軽症から急変する症例のリスク評価に関する研究をさらに深め、臨床検査値との関連性についても検討しており、その結果に注目が集まっています。

(次ページへ続く)

(前ページより)
かけた改修工事をへて令和三年に新たな施設として生まれ変わっています。以上のように動物実験施設は研究支援組織として役割が大きく占めています。主要な業務としては、実験動物使用施設の管理運営がその中核にあります。施設内の実験動物の購入、種、数などの把握、感染予防、清掃、環境整備など多岐にわたります。そのため、非常勤職員および外部委託の職員を加えた人員で対応しています。また近年では研究支援としてマウス、ラットの凍結胚作製、体外受精による個体化を開始し、動物実験施設内の実験設備（X線照射装置、行動実験機器、B2Bイメージング等）の充実をおこなっています。

います。専任教員は現在、成田浩司助教が平成二十年より務めています。動物実験施設の研究室の中心として、成田助教が中心となり、実験動物飼育環境の向上、効率化につながることに取り組んでいます。一例として、従来の254nmを中心とする紫外線(254nm-UVC)を用いた殺菌灯は無人空間や物質表面の殺菌には有効な手段として利用されていますが、ヒトや実験動物の存在する空間の殺菌には使用することができません。そこで透過性の低く皮膚の角質層で吸収される222nm-UVCを用いた有人空間や実験動物飼育室の殺菌への応用や、そのメカニズムの解明に取り組んでいます。また、当施設では特に改修工事前は実験動物の感染症が散発していましたが、その事例報告や飼育環境の消毒方法など飼育環境の向上に関する取り組みを飼育スタッフを中心となり関連学会等で発表をしています。

史の深いサークルで、現在男女合わせておよそ四十人という人数で活動を行っています。週の活動は三回程度で、前期は四月から六月、後期は十月に活動を行っています。部員は高校までにテニスを経験していた人と大学から始めた人の両方が所属しており、お互いに自らのスキルを上げるためにコミュニケーションを多くとっています。他の団体との違いの一つとして、学士編入で入学してきた生徒も多く加入しているという点も挙げられます。また、医学部の学生以外にも、保健学科の部員も多く所属していることもこのサークルの特徴であり、学科の垣根を超えて部員がよい雰囲気練習に励んでいます。部員はみんな優しく、学期の途中からサークルに加入する部員もいますが、すぐに打ち解けてサークルの一員として楽しく活動をしています。

まず、先輩後輩関係なく、部員全員が一丸となって、今後の良い活動を行うことができるように努力していきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い致します。



弘前医ゼミに参加する会 (HZSK)

医学科四年 横田麗奈

動物実験施設のスタッフは、施設長および専任教員一名の体制で開設当時より続いています。施設長は医学科の講座教授が兼任の形で、初代佐藤清美教授(生化学第二)から順に、神谷春夫教授(寄生虫学)、蔵田潔教授(統合機能生理学)、中根明夫教授(感染生体防御学)が務められ、平成二十四年より上野が担当して

今後も、実験動物飼育の環境整備、動物実験支援を軸に進めていきたいと思っております。

部活動とは異なって公式の大会はありませんが、前・後期に一度ずつ、サークル内での大会が行われるため、そこで良いプレーを残すことができるように日々の練習に取り組んでいます。また、通常の活動以外にも、運動会やバーベキューなどのイベントを通じて、部員同士の交流を深めています。コロナ禍以前ではこれらに加えてキャンプやお花見なども行っていました。ここ数年は残念ながら開催することができていない状態です。今年こそは開催できることを願っています。

弘前大学の医ゼミ参加サークルは、「弘前医ゼミに参加する会」から単語の頭文字をとり、通称「HZSK(ヒズク)」と呼ばれています。直近の先輩の代で、非公認サークルから公認サークルに昇格させたこともあり、HZSKに対するメンバーの愛着は深く、今後の展望が大きく開けていると考えています。普段は週に一回ほど定例会(学習会)を開催し、楽しみながら学びを深めることをモットーに活動しています。医学科に限らず、保健学科の学生も所属しています。また、学士編入者も多いため、医学科生の中でも経歴が様々な

ことによって、学習の幅を広げることができています。また、定例会のみでなく、コロナ禍に負けず、プレ・ポスト医ゼミin弘前の開催や定期的なレク企画も活発に行っており、学年の垣根を越えた交流の機会をとても大切にしています。今年度のプレ医ゼミでは、子どもの発達における課題と相談支援の現状について学びました。それに加え、青森県立中央病院の網塚貴介先生にご講演いただき、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

が本格的に主管運動を始めたのは十月からですが、そこから十五回近くもの会議や定例会での話し合いを重ね、一人一人医ゼミ開催への思いを語り合いながらモチベーションを高めてきました。また、サークル内での興味のある学習テーマを自由に出し合った際には、性についての社会問題や、海外の医療、小児疾患、原子力発電についてなど、多様な関心があらわになっていました。最終的に、全国委員会との会議の結果、今年度の開催地は大阪に譲る形となってしまうのですが、来年度は弘前大学で開催できるように、この経験を活かしながら主管運動を進めていきたいと思います。

全国の存在する医学ゼミナールに参加する会の中でもHZSKは注目されているので、今後もよりよい活動をしていけるように努力し続けます。

部活動紹介

硬式テニスサークルKIDS

医学科三年 飯田一茶

皆さんこんにちは。弘前大学医学部硬式テニスサークルKIDS代表の医学科四

年飯田一茶です。私たちのサークルは、昭和六十二年に設立された歴

最後になりますが、日頃からKIDSを支援・応援してくださっている方々にこの場を借りて感謝申し上げます。

今年こそは開催できることを願っています。

今年度のプレ医ゼミでは、子どもの発達における課題と相談支援の現状について学びました。それに加え、青森県立中央病院の網塚貴介先生にご講演いただき、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

今年度のプレ医ゼミでは、子どもの発達における課題と相談支援の現状について学びました。それに加え、青森県立中央病院の網塚貴介先生にご講演いただき、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

今年度のプレ医ゼミでは、子どもの発達における課題と相談支援の現状について学びました。それに加え、青森県立中央病院の網塚貴介先生にご講演いただき、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

今年度のプレ医ゼミでは、子どもの発達における課題と相談支援の現状について学びました。それに加え、青森県立中央病院の網塚貴介先生にご講演いただき、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

テレビに出演して

青森テレビ「わっち!!」に出演して

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授 松原 篤

人間の可聴域は二十〜二万Hzですが、われわれ耳鼻咽喉科医が聴力検査に使用するのは八千〜Hzまでです。モスキート音はそれよりもかなり高い一万五千Hzなどの周波数の音を指します。人間は誰でも高齢になると高音域から難聴が進行する加齢性難聴になりますので、モスキート音が聞こえなくなるのは自然な事です。最近ではモスキート音を聴取できるWebのサイトも多数あり、実際の

弘前大学大学院医学研究科 第2回 若手研究者紹介動画

医学研究科では、各講座で研究されている40歳未満の若手研究者に、現在取り組んでいる研究内容や、研究を志したこれまでの経験を自ら紹介いただくことで、他の若手研究者や学部学生の研究に対する意欲を養うことに加え、紹介した若手研究者自身のモチベーションを向上させることを目的として、「研究者紹介動画」を作成・公開する取り組みを始めました。

第2回目は消化器内科、血液内科、膠原病内科の立田卓登(たちたたくと)先生。『多発性骨髄腫の治療反応性に関するバイオマーカー』の研究を紹介します。



消化器内科、血液内科、膠原病内科 助教 立田 卓登

医学研究科ホームページで公開中! 紹介動画はこちら ↓



公益社団法人 青森医学振興会

【沿革】平成11年3月1日 弘前大学医学部医学科後援会鶴桜医学振興会発足（任意団体）
平成13年4月2日 社団法人青森医学振興会設立認可
平成24年4月1日 公益社団法人青森医学振興会へ移行認定

当会では、青森県の医学・医療の発展を促進するため、次の事業活動を行っております。

- 医学教育活動の活性化を図るための事業への支援
- 医学・医療の高度化に資する医学研究事業への支援
- 地域医療の振興に寄与する事業への支援
- 海外との学術交流等の活性化を図るための事業への支援

随時、会員の募集とご寄附を受付しております。

本会の公益目的事業に対する寄附金（年会費を含む）は、確定申告をしていただくことにより税制上の優遇措置の対象となります。

年会費は、下記いずれかの口座へお振込み願います。

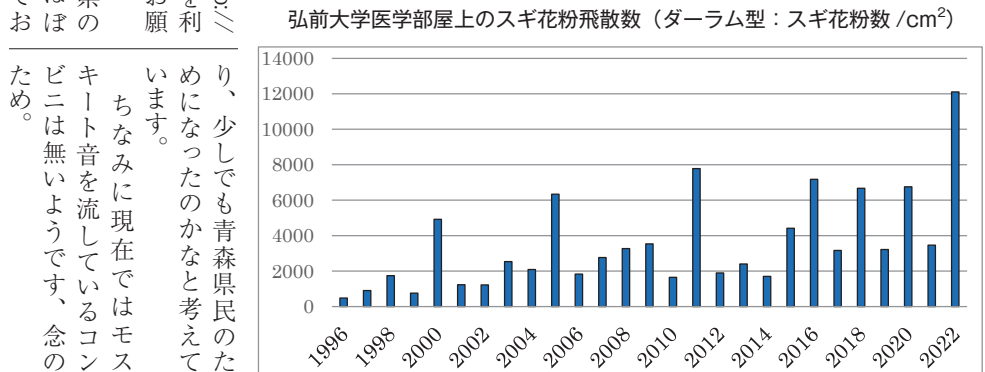
なお、ご入会をご希望される方又はご寄附（年会費を除く）をされる方は、お手数ですが当会までご連絡をお願いいたします。

| 口座名 | | 公益社団法人 青森医学振興会 | |
|-----|------------------|----------------------|--|
| 口座 | 青森銀行 親方町支店 | 普通 1087485 | （注：令和4年11月14日に弘前支店から親方町支店に店名が変更になりました。） |
| | みちのく銀行 大病院前支店 | 普通 0198579 | |
| | ゆうちょ銀行 | 口座記号番号 02200-4-57580 | |
| 会費 | 会員種別 | 年会費 | 参考…ゆうちょ銀行では、令和4年1月17日から、窓口及びATMにおいて現金で払い込みをする場合には、払込人様が現金利用に伴う加算料110円を別途ご負担いただくこととなりますので、ご注意ください。（口座からのお支払いをお勧めします。） |
| | 医学部教員 | 1万円 | |
| | 医学部卒業生等 | 2万円 | |
| | 賛同する個人 賛同する団体 | 2万円 10万円 | |

お問い合わせ 公益社団法人青森医学振興会事務局
TEL・FAX 0172-40-2872 E-mail : info@aomori-mpm.jp

（前ページより）
取材では青森テレビのスタジオに色々な周波数の音を聞いてもらいました。ちなみに私自身は、一万Hzは聞こえませんが二万二千Hzが聞こえない実年齢相当六十代との判定でした。また、取材の中で今野さんとお話をしながら、高齢者社会において聴覚が認知症の大きなリスクとなることに関して注意喚起が出来たことは意義深い事でした。

さて、一月の取材の折にスギ花粉症にも話が飛びました。「今年は全国的にはスギ花粉が大飛散となるそうですね」と言われましたが、これは大きな誤解です。青森県では昨年にスギ花粉が大飛散したため、今年は大飛散することはないと説明したことがきっかけで、花粉症をテーマに二回目の取材を受けることになりました。



実際に、今年の青森県のスギ花粉数の結果はほぼ我々の予測通りとなっており、少しも青森県民のためにならなかったのかなと考えています。

ATVテレビ診察室に出演して

リハビリテーション医学講座 教授 津田 英一

この度、二〇二三年三月五日、十二日放送のATVテレビ診察室に出演する機会をいただきました。前回、二〇一九年に機会をいただいた際には下肢のロボットリハビリテーションを中心にお話をさせていただきました。今回は上肢のロボットリハビリテーションについてご紹介させていただきました。上肢のリハビリテーションは、脳血管障害や脊髄疾患、関節疾患などで大変ニーズの高い治療です。現在、附属病院リハビリテーション科では体幹、肩、肘、手、指の各部位に対応したリハビリテーションロボット「Tyromotion」、シリーズ（写真1）をフルラインナップで設置してあります。視聴者の皆様からのご理解をいただけるよう、収録はリハビリテーション科の訓練ルームで実機を使用して行いました。各リハビリテーションロボットの特徴を説明した後、セラピストの先生のご協力のもと実際のリハビリテーション場面を再現し撮影を進めました。各動作課題をディスプレイ上の攻略課題に置き換えてゲーム



写真2 リハビリテーション場面



写真1 Tyromotion



三陸温泉

今回は、三沢市内の温泉を巡りましょう。三沢市観光協会ホームページの温泉紹介が充実しており、参考になります。人口三万九千の市内に十以上の温泉が点在している羨ましい温泉環境です。ちなみに、青森県内で人口当たりの温泉数が多い市町村は平川市ではないでしょうか。平川市観光協会には二十以上の温泉が紹介されています。平川市の人口は三万ですが、面積は三沢市の三倍近くあります。ということと、三沢市の温泉密度は県内屈指と言えましょう。

三沢市内には、塩化物泉と単純温泉がありますが、いずれも個性のある良い温泉です。県立三沢航空科学館・寺山修司記念館・斗南藩記念観光村（道の駅みさわ）・三沢市先人記念館を訪れた際などの機会に、三沢市内の温泉も堪能してください。



三沢温泉・三沢保養センター



斗南藩記念観光村（道の駅みさわ）

三沢市内には、塩化物泉と単純温泉がありますが、いずれも個性のある良い温泉です。県立三沢航空科学館・寺山修司記念館・斗南藩記念観光村（道の駅みさわ）・三沢市先人記念館を訪れた際などの機会に、三沢市内の温泉も堪能してください。



三沢空港温泉

青森 あずまし 温泉紀行

37

鬼島 宏
（医学教育学講座・教授）

- 三陸温泉
- 三沢温泉
- 太郎温泉
- 三沢空港温泉

三沢温泉（第百四十六湯・三沢市三沢園沢・二十二時迄）三沢保養センターは、市役所通りを東に向かいJAおいらせ交差点付近ですが、少々分りにくい場所です。かなり鄙び系の建物ですが、良く温まるアルカリ性単純温泉は地元の方に愛されているようです。一人用サイズの小浴槽にはいると、心地よさ最高です。

三沢空港温泉（第百四十八湯：三沢市東岡三沢・二十四時迄）は、三沢空港正面の交差点と、とても分かり易い場所にあります。観光協会ホームページにも空港から徒歩五分と記載され、立地も良いことから多くの方が訪れているようです。アルカリ性単純温泉が豪快にかけ流されており、露天風呂も気持ちが良い。

人事異動 (R5.3.1 ~ R5.5.31)

●医学研究科所属

【定年退職】

Table with 5 columns: 発令日, 所 属, 職 名, 氏 名, 異 動 先 等. Lists retirement notices for R5.3.31.

【昇任】

Table with 5 columns: 発令日, 所 属, 職 名, 氏 名, 前 所 属. Lists promotion notices for R5.4.1 and R5.5.1.

【採用】

Table with 5 columns: 発令日, 所 属, 職 名, 氏 名, 前 所 属. Lists hiring notices for R5.4.1 and R5.5.16.

【配置換】

Table with 5 columns: 発令日, 所 属, 職 名, 氏 名, 前 所 属. Lists reassignment notices for R5.4.1.

【配置変更】

Table with 5 columns: 発令日, 所 属, 職 名, 氏 名, 前 所 属. Lists reassignment notices for R5.4.1.

【辞職】

Table with 5 columns: 発令日, 所 属, 職 名, 氏 名, 異 動 先 等. Lists resignation notices for R5.3.31.

●附属病院所属

【昇任】

Table with 5 columns: 発令日, 所 属, 職 名, 氏 名, 前 所 属. Lists promotion notices for R5.4.1.

【採用】

Table with 5 columns: 発令日, 所 属, 職 名, 氏 名, 前 所 属. Lists hiring notices for R5.4.1.

【配置換】

Table with 5 columns: 発令日, 所 属, 職 名, 氏 名, 前 所 属. Lists reassignment notices for R5.4.1.

【辞職】

Table with 5 columns: 発令日, 所 属, 職 名, 氏 名, 異 動 先 等. Lists resignation notices for R5.3.31.

臨床教授・臨床准教授新規称号付与者名簿 (令和5年4月1日付)

Table with 4 columns: 称号名, 氏 名, 現 職 名, 称号付与期間. Lists new titles for clinical faculty.

診療教授等新規称号付与者 (R5.3 ~ R5.5)

Table with 4 columns: 称号, 氏 名, 所 属, 期 間. Lists new titles for clinical faculty.

お悔やみ. Memorial notice for Professor Katsuyuki Matsuda, Director of the Department of Neurology, who passed away on April 29, 2023.

医学部ウォーカーがAIで書かれる日は訪れず、本学の活動と信じておられます。と信じておられます。

編集後記. Editorial note regarding the AI writing of the magazine and the passing of Professor Matsuda.